

新宿ターミナル協議会（第2回） 議事概要

1. 日時・場所

平成27年12月18日（金）13時00分～14時30分 ， 都庁第二本庁舎 特別会議室 21

2. 出席者

別紙 参加者名簿のとおり

3. 議題

- (1) 利用者の利便性の向上のための対応方針について
- (2) その他
- (3) 意見交換
- (4) 今後のスケジュール

4. 主な発言要旨

(冒頭挨拶)

〔岸井教授（座長）〕

- 前回、知事や区長にもご出席いただきスタートを切り、案内サイン分科会、バリアフリー・利便性分科会を2、3回開催してきた。それらを踏まえ、案内サインとバリアフリー、更なる利便性の向上という3つの軸について議論していきたい。
- 他のターミナルにおいても、サイン等の検討が進んでいる。東京、新宿、渋谷、池袋といった大きなターミナルが、ある一定の方向に向かって、サインやバリアフリー、駅の環境改善に取り組んでいくよう、関係者の協力をお願いする。

(事務局より資料説明)

(意見交換)

〔岸井教授（座長）〕

- 共通の表記集は、他のターミナル駅とも整合を図るということでよいか。

〔事務局〕

- 既定の方針も考慮しつつ、整合を図っていく。

〔JR東日本〕

- 資料5 ページ目の「進行方向の選択肢が複数ある空間の中で、案内すべき主動線を定める」について、これは最短経路でなくても案内しやすい経路を案内していくということか。

〔事務局〕

- 最短経路とするためには、わかりにくい場所を通らなくてはならないところもある。迷わず目的地に到達できるようにするというのを基本的な考えとしたい。

〔赤瀬氏（専門アドバイザー）〕

- 資料5 ページ目の「案内すべき主動線を定める」について、考え方として適切だろうと思う。動線の分岐点で、ありとあらゆる可能性を限られたスペースに表現しようとするとう情報過多になり、かえって混乱が起きる。情報の極めて少ない人に最適なコースを案内していくということがサインシステムの基本形である。そのうえで、分岐点の案内を通り過ぎてしまった場合などの新たなニーズを想定して、図解サインや指示サインを設定し直すということもあるかと思う。動線の分岐点では主動線を示しつつ、どこからか人が出てくるようなサブ動線が集まる部分でまた案内を組み直す、というような構成である。

〔岸井教授（座長）〕

- 今日は基本的な考え方だけが、具体的にどこのサインに何を書くのかという段階にならないと本当の議論にはならない。サインの盤面は限られているため、掲載する情報の優先順位を決めるということも必要かと思う。分科会等において、具体的な議論を進めてほしい。

〔京王地下駐車場〕

- 資料5 ページ目の「案内すべき主動線を定める」について、例えば京王新線の改札前からJR線に行こうとした場合、JR線の南口に向かうのが主動線ということになると思うが、この経路はバリアフリー化されていない。バリアフリールートについてはどのように案内するのか。
- 図解サインのサイズについて、京王モールやサブナードではマップ等を掲出するために道路管理者に道路占用料を支払っている。サイズが大きくなればなるほど負担も増えるので、その点も踏まえて基本ルールを策定していただきたい。

〔事務局〕

- 主動線とは別に、バリアフリーを必要とする方々のため、バリアフリー対応ができていない経路等を示したマップを掲示することで対応したいと考えている。

〔岸井教授（座長）〕

- 二点目のご意見は、全体のマネジメントに関わること。更新をどうするのかということについても議論しなければサステナブルにならない。誰が地図をつくり、データを更新し、どこに掲示するのかを今後議論していかなければならない。

〔西武鉄道〕

- 資料4 ページ目の「体系」の部分に「主要なエリアごとにまとまりを設定する」とあるが、少し離れている西武新宿駅はどのように扱われるのか。西武新宿駅から他のまとまりに行こうとすれば大変わかりやすくなるが、西武新宿駅に向かおうとする場合、まとまりの一つとして扱われなければ現状と変わらない。

〔事務局〕

- そのようなご意見を踏まえながら、今後の具体的な調整を進めていきたい。

〔JR東日本〕

- 資料10 ページ目の「複雑なターミナルの全体像の可視化」「共通のターミナルマップの作成」について、幾層もある複雑な構造をひとつにしたものを見てわかりやすくなるのか、必要なのかという点に疑問がある。駅の改修等に合わせて更新していかなければならないという課題もある。そのようなマップがなくても、わかりやすい案内により目的地に辿り着ければそれでよいのではないか。最近の経路探索ソフトでは、全体図がなくても案内をしている。ターミナルマップを配布することのメリットと、それを用いた案内のメリットについてどのように考えているのか。

〔事務局〕

- 本協議会の対象範囲は改札の外のみなので、地上と地下1階の二層に絞って案内をすることになる。今朝の新聞にもJR新宿駅のサービスマネージャーの方の記事が出ているが、どこでどの場所について道を尋ねられるかはわからないので、全体のマップは必要だろうと考えている。例えば、名古屋駅でも地元の方々が主体的に全体のマップを整備しているなど、わかりやすさに貢献できるものとして実績のあるものだと考えている。

〔赤瀬氏（専門アドバイザー）〕

- どうするとわかりやすくなるかということ。ばらばらの個別要素が、実はどのようなまとまり

を持っているのか、部分と全体の関係を示すことが、わかりやすくするために広く用いられている整理手法である。新宿駅は高さ方向の移動が比較的少ないので、全体像を見せる表現は比較的容易である。こうした手法は欧米の鉄道ターミナルでも一般的で、誰もが理解しやすい有力な手段と考えられる。

〔岸井教授（座長）〕

- 鉄道の乗換やバスの乗換が生じる場所であるため、徒歩圏内程度については全体像を示さないとわかりにくくなる。むしろ詳細図も必要なのではないかと思う。少なくともどこへ行ってもベースが同じ地図があり、現在位置を把握できる方がよい。
- 地上と地下における全体図の使い分けをどのようにしていくかは考えていかなければならない。地上に出れば街の地図も必要なため、駅と街の地図の引き継ぎ点を決める必要がある。感覚的には駅前広場までは駅の地図を用いたほうが良い。

〔国土交通省都市局〕

- 本協議会の範囲外においても地下空間は続いている。少なくとも地図に表示される範囲については連続した地下空間を表現する必要がある。
- 今後のスケジュールについて、できることから順次実施ということだが、各事業者のサインの更新の時期と合わないということも考えられる。整備のタイミングについてどのように考えているのか。

〔事務局〕

- 地図の表示範囲についてはご指摘の点を踏まえ、対応していきたいと考えている。
- 整備のタイミングについては、各社の範囲ごとにはばらばらと変わっていくことにも課題がある。特に隣り合う事業者間でどの程度歩調を合わせることができるのか、十分に調整させていただきたい。整備計画については来年度早々にまとめたい。

〔岸井教授（座長）〕

- 集散点(まとめ)と呼んでいるエリアについて、利用者が認識できるような名称にすることが一番のポイントである。名称と場所の関係性について、どうしたら皆が感覚的に把握できるかということについて工夫が必要である。色々な人々に意見を聞く必要もあるかもしれない。

- 地上への階段については、全体的に整理された番号を振って案内するのか。

〔赤瀬氏(専門アドバイザー)〕

- 番号を降り直すと改札内にも影響があるため、むしろ混乱を招くという判断もあると思うがどうか。

〔事務局〕

- 2020年という目標があるため、改札内で既に案内されている番号等を尊重しながら進めていくのが現実的だと考えている。

〔岸井教授(座長)〕

- ややこしい番号になっていないのであれば問題ない。

〔岸井教授(座長)〕

- 今日は基本的な考え方の確認であったが、より突っ込んだレベルで個別に一つ一つ検証していかなければならない。この基本的な考え方をベースに具体的な検討、調整がこれからはじまる。
- 表記の統一性については、他のターミナル駅とも整合を図りながら、外国人にとってもわかりやすくなるよう、東京全体としての統一も図っていかなければならない。
- また、サインの配置や色等の表現方法についても、他のターミナルとの整合が図ればサインを認知しやすくなるし、サインの視認性自体を高める工夫も必要である
- 費用の問題もあるが、補助制度について国での検討が進んでいるし、東京都についても前回の協議会の中で知事から財政的な支援を含めて予算措置をしていく旨の発言があった。事業者の皆様には、この機会に協力して進めてもらいたい。
- 外国人が東京駅等の他のターミナルで見たサインと同じようなものが新宿にもあり、そこに行けばどういう情報が得られるかということを知り、そこを起点として乗換をすることもでき、またあるところに行けば、共通の街のサインも出てくることが実現できればわかりやすくなる。我々日本人は地下を歩くが外国人は地上を歩くと先日言われた。外国人は街を見ながら乗換をしたい。それならば街のサインとの連携が必要である。別の会議で検討されている街のサインとも連携しながら進めてもらいたい。

(文責 都市整備局都市基盤部交通企画課)

新宿ターミナル協議会（第2回） 出席者名簿

	役 職 名	氏 名	備考
座 長	日本大学大学院理工学研究科教授	岸井 隆幸	
専門アドバイザー	株式会社黎デザイン総合計画研究所代表取締役	赤瀬 達三	
委 員	国土交通省関東地方整備局東京国道事務所長	西川 昌宏	
委 員	東京都都市整備局都市基盤部長	中島 高志	
委 員	東京都都市整備局交通政策担当部長	堀 真	
委 員	東京都建設局道路保全担当部長	川合 康文	代理
委 員	東京都交通局企画担当部長	根木 義則	代理
委 員	新宿区都市計画部長	新井 建也	
委 員	新宿区みどり土木部長	野崎 清次	
委 員	東日本旅客鉄道株式会社東京支社総務部企画部長	堀江 雅直	
委 員	東京地下鉄株式会社鉄道本部鉄道統括部長	米 彰	代理
委 員	西武鉄道株式会社鉄道本部計画管理部長	松本 康一郎	
委 員	京王電鉄株式会社鉄道営業部長	井上 晋一	
委 員	小田急電鉄株式会社交通サービス事業本部執行役員交通企画部長	黒田 聡	
委 員	株式会社ルミネ開発企画部長	大野 邦仁	
委 員	新宿サブナード株式会社総務部開発推進担当部長	藤井 俊昭	
委 員	京王地下駐車場株式会社事業部長	澤 昌秀	
委 員	一般社団法人東京バス協会理事長	村上 伸夫	
委 員	一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会専務理事	藤崎 幸郎	代理
委 員	一般社団法人東京個人タクシー協会副会長	秋田 隆	代理
委 員	公益財団法人東京タクシーセンター指導部長	増田 祐一	代理
オブザーバー	国土交通省鉄道局都市鉄道政策課駅機能高度化推進室長	金子 修久	代理
オブザーバー	国土交通省都市局街路交通施設課街路事業調整官	服部 卓也	